

## 一般会計税収（2018年3月末時点）

発表日：2018年4月27日（金）

～17年度税収は政府見込み上振れか～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 副主任エコノミスト 星野 卓也  
 TEL:03-5221-4547

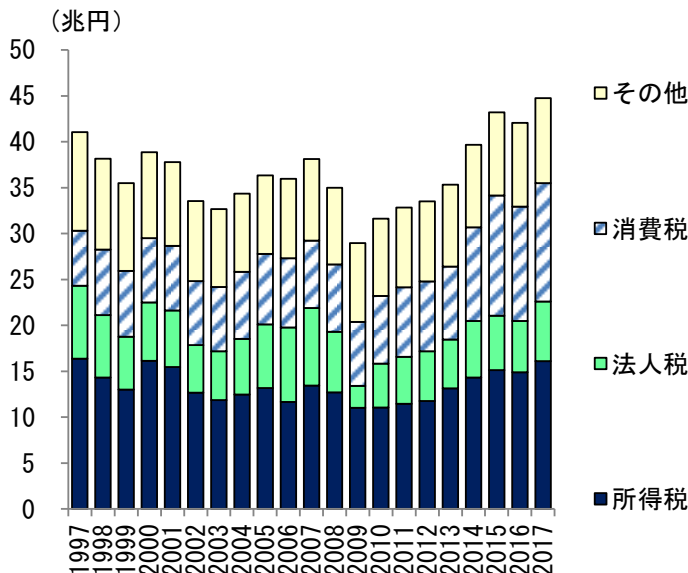
財務省から公表された2018年3月末時点の税収累計額は44.7兆円（前年比+6.3%）と増加した。弊社で作成した季節調整値も増加トレンドを維持、税収は明確な回復を見せており、非常に好調である。今回の値には年初以降の円高株安の影響が一部に出ていると考えられるが、3月単月の年換算・季節調整値は59.1兆円と高水準を保っている。現状腰折れの兆しはうかがえない。

3月末時点累計値の内訳をみると、所得税が16.1兆円（前年比+8.2%）、法人税が6.5兆円（同+16.0%）、消費税が12.9兆円（同+3.5%）であった。雇用や賃金の増加、企業収益の増加などを追い風に、主要3税が揃って堅調だ。

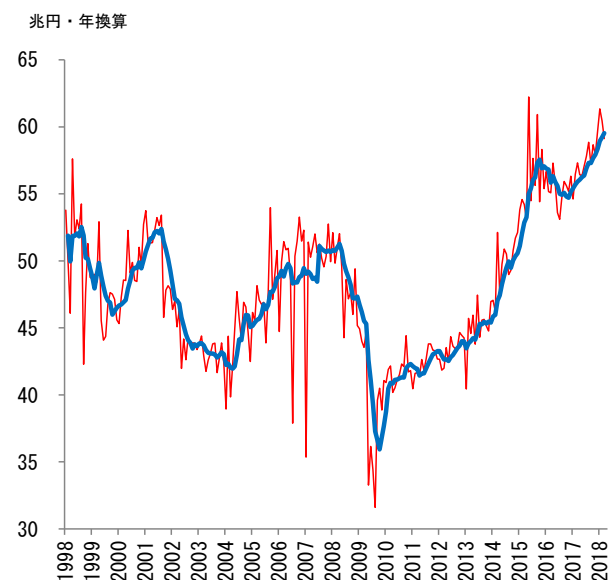
仮に4・5月の税収<sup>1</sup>が2016年度と同水準で推移した場合、2017年度の税収は58.1兆円となり政府見込み（57.7兆円）を上回る。今年に入ってから円高・株安の影響が懸念される（特に法人税）ではあるが、現状では政府見込みを上振れする可能性が高そうである。なお、2017年度の税収が16年度（55.5兆円）から増加することは確実な情勢である。

次回公表される4月末時点の税収では、2017年度の所得税が概ね確定する。年初以降の市場環境の変化の影響をそこでも見定めたい。

資料1. 税収（3月末時点累計値）



資料2. 税収（季節調整値）の推移



(資料1 出所) 財務省「租税及び印紙収入、収入額調」

(資料2 出所) 同上。季節調整値は第一生命経済研究所。太線は6ヶ月移動平均。

<sup>1</sup> t年度の税収は、t+1年5月の納入分で確定する。